

記者発表資料
平成23年 1月 5日

所属	生活環境部クリーンセンター
担当	所長：高木昭胤
連絡先	0584-89-4124

リサイクルセンター建設事業について

1. 施設名

(仮称) 大垣市リサイクルセンター

2. 目的・趣旨

新たにプラスチック製容器包装のうち、ボトル類、カップ類、トレイ類を分別収集し、(財)日本容器包装リサイクル協会を經由して再商品化事業者によりプラスチック製品などにリサイクルする。これにより、一般家庭から出る生活系ごみの容積で40%、重量で10%を占めるといわれている、プラスチック製容器包装ごみの適正な処理及び資源の有効な利用の確保を図り、もえるごみの減量化を推進するもの。

3. 建設主体

大垣市

4. 着工・完成年月日

平成23年春入札 平成24年2月完成予定

5. 所在地・建設予定地

大垣市米野町3丁目地内 クリーンセンター敷地内 (旧焼却施設跡地の一部)

6. これまでの経緯

平成21年度 基本計画 (生活環境影響調査含む)

旧焼却施設解体工事 (~平成22年度)

平成22年度 実施設計

7. 事業費

約4億円

8. 事業概要

①構造・規模 鉄骨造 2階建て

延床面積 約1,390㎡（見学者通路を含む）

太陽光発電設備（20kw）

②主要スペース

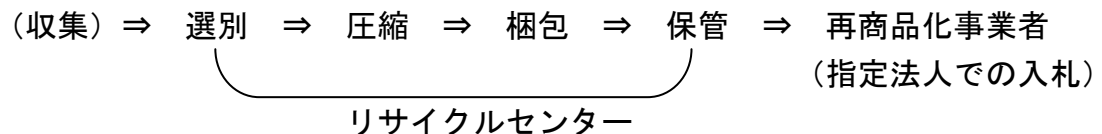
【1階】 プラットホーム、受入ヤード、成形品ヤード、ストックヤード

【2階】 手選別室、見学者通路、展示スペース、休憩室

③施設規模（処理能力） 3.7t／日

9. その他

①作業の流れ



②分別品目

その他プラスチック製容器包装のうち、ボトル、カップ、トレイ類（別紙参照）。

③再商品化方法

- ・マテリアルリサイクル・・・プラスチック製パレット、車止めなどの原材料。
- ・ケミカルリサイクル・・・製鉄業での還元剤。熱分解による油化、ガス化。

- ・白色トレイは選別過程で分け、製造業者である(株)エフピコにて、トレイトトレイとしてマテリアルリサイクルを予定。

⑤効果

- ・年間約900t（パッカー車500台分）のごみの減量化が見込める。
- ・年間約2,500tのCO₂（スギ178,000本相当、体積で東京ドーム約1個分）を削減できる。

④その他

- ・新聞紙、雑誌、ダンボール、ビン、カン、ペットボトルなどの資源ごみや、廃食用油などの持ち込みを受け入れることができるストックヤードを併設予定。